

部族民通信 人類学講座 レ
ヴィストロースを読む

神話学 Mythologique

SNS活動

ホームページ WWW.tribesman.net

ブログ <https://blog.goo.ne.jp/tribesman>

XTwitter部族民通信@9pccwVtW6e3J3AF



Claude Lévi-Strauss
1909~2009
(Bororo族調査時、1936年)



Mythologique
神話学2 生と
調理 1

ボロロ族

居住圏

びっこ

住まい

ち

神話学 生と調理 ボロロ族の居住域 風俗

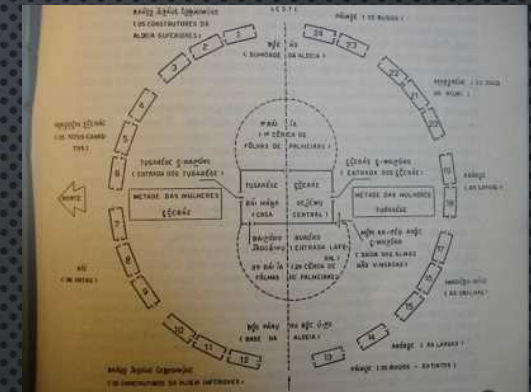


ボロロ族の民族誌

ブラジルの中央台地マトグロッソの南方に居住地を持つ有力部族、母系 (matriarchal) 集団、盛時の人口は3000人を超えていた。その邑落は中央に成人男が居住する「男屋」を配し、周囲を女小屋が円周に囲む。(架空の) 線で南北に等分され、北がセラ部南はツガレ部。各部は4等分されそれぞれが支族 (clan) として特定されている。さらに支族は上中下の階層ヒエラルキを持つ。すなわち邑は32の支族と階層に分けられている。

この分類は身分、儀礼次第、行動、婚姻を規定します。同じ部の間での婚姻はない。セラの男はツガレ部の特定の支族の娘としか結婚できない。民族学の用語を借りると部は外婚 (exogamie)、支族レベルで階層まで区切った内婚 (endogamie) の婚姻制度。着用する飾り物にも社会身分 (支族と階層) の規定が厳密である。長く優美な金剛インコの尾羽は儀礼に必須だが、男の属する支族と階層でいかに飾るかの様式が決まる。ボロロ語で「豊か」の意味は継承した社会地位が高く、それだけ豪華な尾羽を頭に飾れる権利を持つとの意味である。

かつては人口3000との報告があった。均等に配分されているとすれば、32の単位は100人ほどの構成となっていただろう。男女が50人見当。適齢期の男女はそれぞれ10を数えられるか、この制度は成り立つだろう。レヴィストロースが訪問した時期、20世紀初頭での総人口は400未満だった。すると対向支族は婚姻可能な娘を用意できるか、難しい場合もあるだろう。悲しき熱帯では人口減少と婚姻制度の維持が難しい社会が描写されている。



ボロロ族が抱く村落像、中央に男の集合屋、それを取り巻く女の個別屋

M1神話 火と水の 創造

神話学 生と調理 M1 基準神話 英雄バイトゴゴの冒険

« Dans des temps très anciens, il advint que les femmes allèrent en forêt. Un jeune garçon suivit sa mère en cachette, la surprit et la viola. Quand celle-ci fut de retour, son mari remarqua les plumes arrachées, encore prises à sa ceinture d'écorce » (43頁) 昔々、森に入った母を少年(ヒーロー)が追って犯した。夫は、妻の腰ベルトに挟まれている羽飾りに気付いた。

以下は後続(引用無し)：成人の通過儀礼で少年達を集めダンスをさせた。その羽と同じ柄を付けるのは己の子と目撃し、2度目のダンスでも同じ結果が明らかとなった。妻と子の近親姦を恨む。復讐に「精霊の巣」から楽器(hocchet=マラカス)を盗み、持ち帰るよう子に命じます。この困難に子は祖母に相談する。ハチドリ(oiseau-mouche)の助けを借りよと答えが返った。ハチドリは楽器を吊す紐を切った。ジョと音を立て川に落ちる、精霊が飛び出してきたが鳥が回収して子に渡す。父はさらに中マラカス、小マラカスを盗むよう命じ、鳩とバッタの助けを借りて盗みに成功し、父に渡した。

(父親は金剛インコの巣を絶壁に認めた。雛を採取する機会) Les deux hommes sont arrivés au pied de la paroi ; le père dresse une longue perche et ordonne à son fils, d'y grimper. A peine celui-ci est-il parvenu à hauteur des nids que le père abat la perche ; le garçon a tout juste le temps d'enfoncer son bâton dans une crevasse. Il reste suspendu dans le vide, criant au secours, tandis que le père s'en va. 父と子は絶壁の足元に立った。父は長いはしごを立て掛け、子に登れと命じた。子が巣のあるべき高さによじ登るやいなや、父ははしごを外した。子は棒を裂け目に立てて宙吊りになるも身を守った。救いを求めるも父は立ち去った。

Notre héros aperçoit une liane à portée de main ; il la saisit et il se met péniblement jusqu'au sommet. Après s'être reposé, il se met d'en quête de

nourriture, confectionne en arc. Et des flèches avec des branchages, chasse les lézards qui abondent sur le plateau. Il en tue une quantité, dont il accroche le surplus à sa ceinture et au bandelette de coton qui enserme ses bras et ses chevilles. 子は葛の蔦を頼りに絶壁の頂上に這い登った、休むまもなく食物を探す。トカゲが数多く捕れた。食べ残りを腰紐、腕巻、くるぶし紐に取り付けた。

身体にくくったトカゲをは腐敗し、悪臭で気を失った。ハゲワシについばまれて尻がなくなった。そのあと何故かハゲワシ達は少年を担ぎ上げ « les oiseaux se font sauveteurs : avec leur bec, ils soulèvent le héros et le déposent doucement au pied de la montagne » (44頁) 優しく山の麓に送り届けた。

トカゲに変身して村に戻った « il emprunte l'apparence d'un lézard dont le manège intrigue longtemps la vieille femme... » その細工姿が祖母・他の縁者を欺いた(同)。祖母の小屋に住み着き、頃合いを見て人間の姿に戻る。« une violente tempête accompagnes d'un orage, et tous les feux du village furent noyés, sauf celui de la grand-mère » 洪水が発生し常夜火の全てが消えた、祖母が大事に守った火の一灯だけ残った。祖母に火を村人が貰いに来る。すると父の第2妻(義母)が死んだ筈の義理息子認め、大急ぎで夫に注進する。父は息子の帰還を祝った。

ヒーローは父を誘い出し、牡鹿に変身して沼に突き落とした。父はピラニアに食べられた。« celle-ci (victime) est dévorée par les esprits qui sont des poissons cannibales. De retour au village, le héros se venge aussi des épouses de son père (dont l'une est sa propre mère) » 返す足で実の母も含め、父の妻達を殺した。

(ヒーローの名はバイトゴゴとM2で伝わるのでその名を用いる)

起点は近親姦
英雄の孤立と帰還
旧社会の破滅、再生

1 上下婚 (オヤコタワケ)

近親姦が文化創生のきっかけ

2 旧来の制度、父の権威への反発

イニシエーションでの詐術

3 孤立、自然、死、再生

絶壁上でトカゲ生食、死、トカゲに変身、帰還

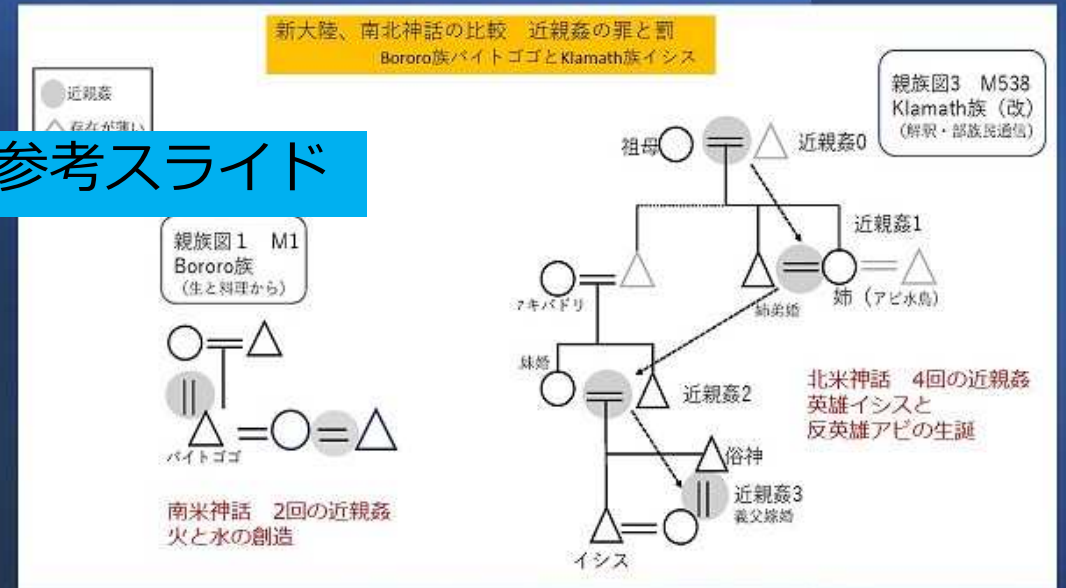
4 狩りの技術の取得 弓矢を作成した

5 火と水の創生

竈の火一灯を守った (使える火)

出奔して湖水を創造した (使える水) M2

参考スライド



- 1 近親婚の発生 (南北神話比較) 上図
- 2 旧制度への反発、(北米神話) 義父が息子の嫁を盗む
- 3 イシスの孤立、帰還
- 4 水の創造 (イシス)

火の取得

水の創造

火の取得、

1 M1ボロ口族神話では「洪水に漂われた村で一灯だけ残った竈の火」

2 別神話では「ジャガーが所有する火と狩り道具を英雄が盗んだ」

« La femme du jaguar, qui était une indienne, n'aime pas le jeune homme qu'elle appelle fils étranger ; mais malgré cela, le jaguar, qui est sans enfant, décide de l'adopter. Chaque jour, le jaguar part à la chasse, laissant son fils adoptif avec sa femme, qui lui témoigne une croissante aversion ; elle ne lui donne à manger que de la viande vieille, et des feuilles. Quand le garçon se plaint, elle le griffe au visage, et le pauvre doit chercher le refuge dans la forêt »

(M7, Kayapayo族)

(英雄はジャガーに救われ宅に連れていかれる。ジャガー夫人は人間の女、夫が連れてきた英雄を「見知らぬ子」と蔑んだ。ジャガーには子がいない、英雄を養子にした。妻は子に古びた肉、葉っぱしか与えなかった英雄が嘆くと顔に爪を立てる、森に逃げ込んだ。(英雄はジャガーが持つ弓矢を用いて義母を殺し、狩り道具と「焼いた肉、昔は火はジャガーだけが持っていた」を抱えて逃げた)。村に戻って焼き肉を皆に振る舞った。味の良さに皆が驚き、ジャガー留守宅に押しかけて火を盗んだ。以来、人は火を用いる調理を始めた、肉を焼いて食った。

人は調理肉を食う、ジャガーは今は爪で獲物をとどめ生肉を食らう

水の創造

英雄バイトゴゴが水を創造する

« chaque fois qu'il s'arrête pour se reposer, il provoque l'apparition des lacs et des rivières, car à cette époque l'eau n'existait pas encore sur la terre. Chaque fois que l'eau surgit, l'arbre décroît et finit par disparaître (M2 Bororo). (英雄は近親姦を侵した妻を殺し出奔し地上をさまよう) 彼が止まり休む度に、河川と湖沼が湧き上がった、このときまでは水は存在していなかった。

« Les chefs ne reviendront plus visiter leurs concitoyens que pour leur faire don des parures, des ornements et des instruments que, dans leur exil volontaire, ils inventent et s'emploient à fabriquer (dito) » バイトゴゴが村を留守にしている間に（水が創造されたので）村人は宝飾品、飾り物、楽器の作製技術をものにしていた。

英雄達（バイトゴゴとイツボレの二重宗教権威、Cera部のボロロ族での覇権を確立に寄与）は贈り物が多数蓄積されてのちに戻ってくる。

(水と儀礼の関係)

儀礼の確立

儀礼の始まり

(水が創造され宝飾品の制作をボロロ族が自家のものにした) 英雄は儀礼次第を決める。

« Quand ils reparaissent pour la première fois au village, superbement parés, leurs pères, devenus leurs successeurs, sont d'abord effrayés ; puis ils les accueillent avec des chants rituels. Bokadori, père de Borogo, le compagnon de Baitogogo, exige les héros lui donnent tous les ornements. Un épisode, à première vue énigmatique, conclut le mythe : « il ne tua pas ceux qui en apportaient beaucoup, mais il tua ceux qui en avaient apporté peu » (dito)

(二重権威) が着飾って初めて村に立ち戻った時、彼らの父親(系統内の年長者)、すなわちボロロ村の世俗権威達は、驚きを隠せなかった。そして儀礼の囃子で二人を受け入れた。バイトゴゴの盟友にしてボロゴの父であるボカドリ(二重権威の片割れ)は、居並ぶ勇者達にすべての装身具を差し出せと迫った。このやり取りは謎に満ちている。しかしこれが神話(儀礼)の結論でもある。多くを持ち込むものは殺さない。少なくしか差し出さないものは殺す。

洪水の後 族民の間引き

洪水の後 1

M3 ボロロ族 Après le déluge 洪水の後

(洪水の後、あらたな社会のもと、族民が増大した。その数に怖れを抱いた太陽神Meriは、人口抑圧に踏み切る。樹の洞を穿った舟を族民に見せ河を渡れと命じた。族民は従うしか選択はない、Bokodori (バイトゴゴの盟友、宗教権威、M2) だけは許された。脚の不具合で出立に遅れたとの言い訳。全員が河に呑まれる。Bokodoriは溺死体を選ぶ)

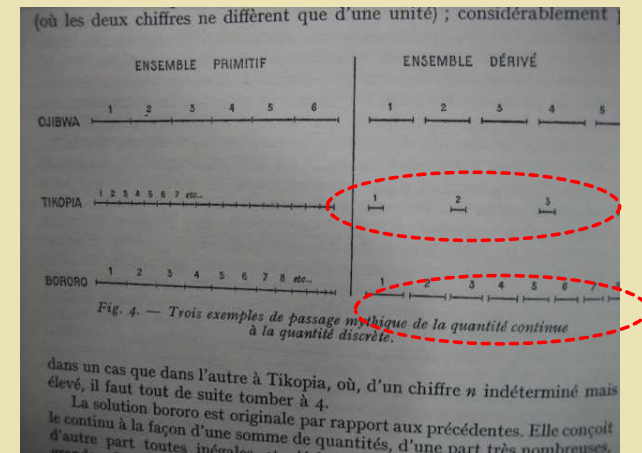
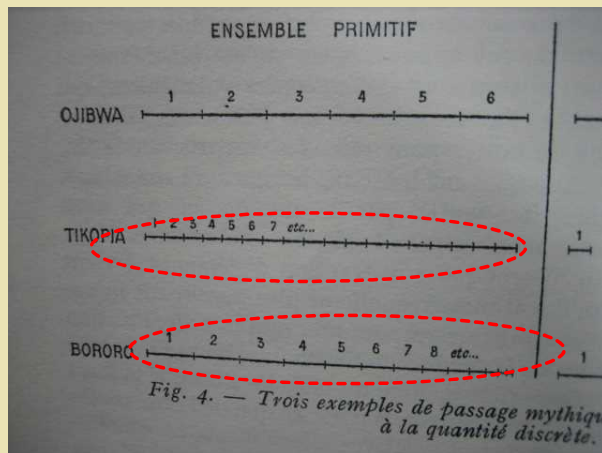
« Ceux qui furent entraînés par les tourbillons eurent des chevaux ondulés, ceux qui se noyèrent en eau calme eurent chevaux fins. On s'en aperçut après que Bocadori les eut tous ressuscités par ces incantations accompagnées au tambour. Il fit un effet revenir d'abord les Buremoddodogue, les Codogue… » (59頁)

渦に巻き込まれた者たちは渦毛をしていた。静水で溺れたものたちは細毛だった。すべてを呪いと太鼓でBovadoriは蘇らせた。まずBuremdodogue民が戻らせられ、Codogueが続いて…7族が村に戻るを許された。(Bocadori の部と合わせて8支族で構成されるぼろろ村落が形成された)

« De tous ces nouveaux arrivants, il accueillait seulement ceux dont il agréait les présents. Tous les autres, il les tua à coups de flèches » この間引きの前に新参だった民は、Bocadoriがそれらの贈り物に満足する民を除いて、すべてが矢で射掛けられ殺された。

洪水の後 2

写真は本著書から。3部族の間引き方法、左が洪水前の連続居住。右に間引き後の形態。ボロロ族は最下、無数の支族が8に集約されています。



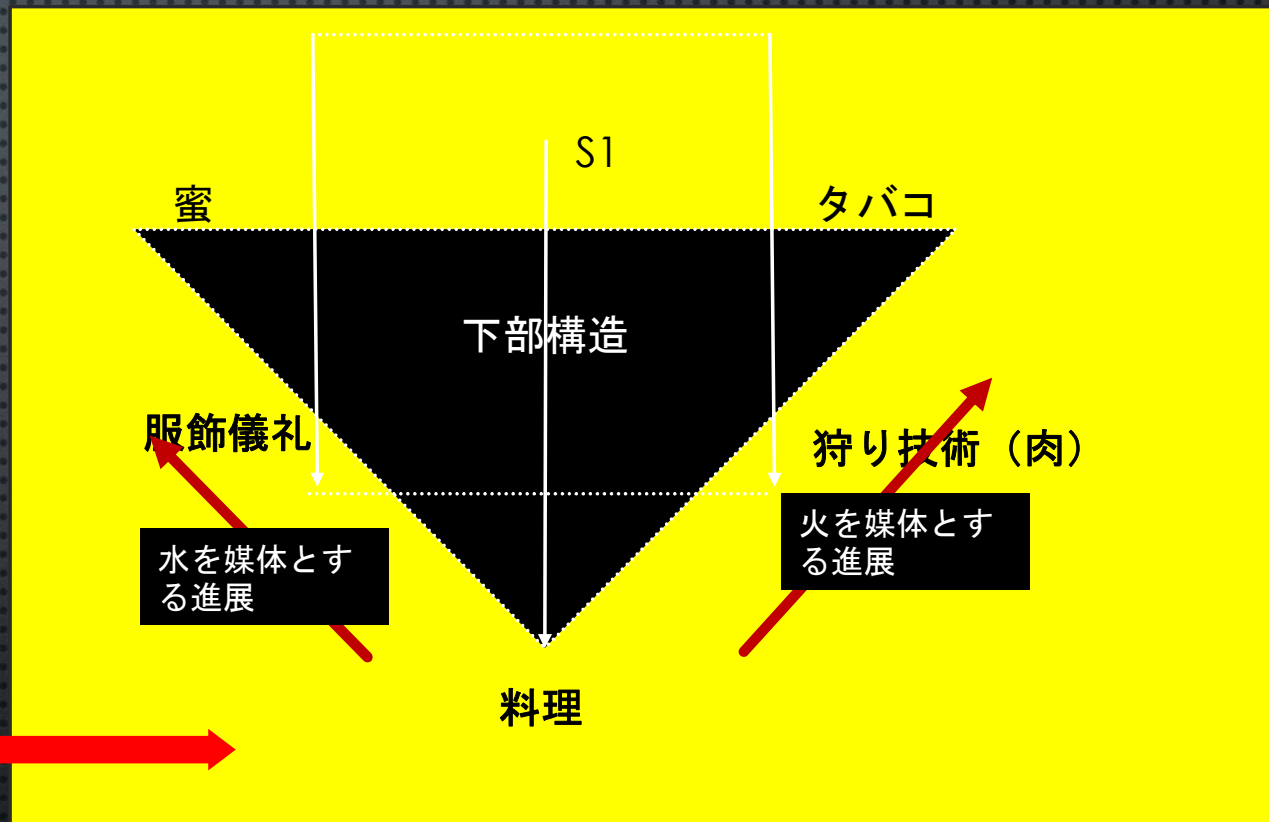
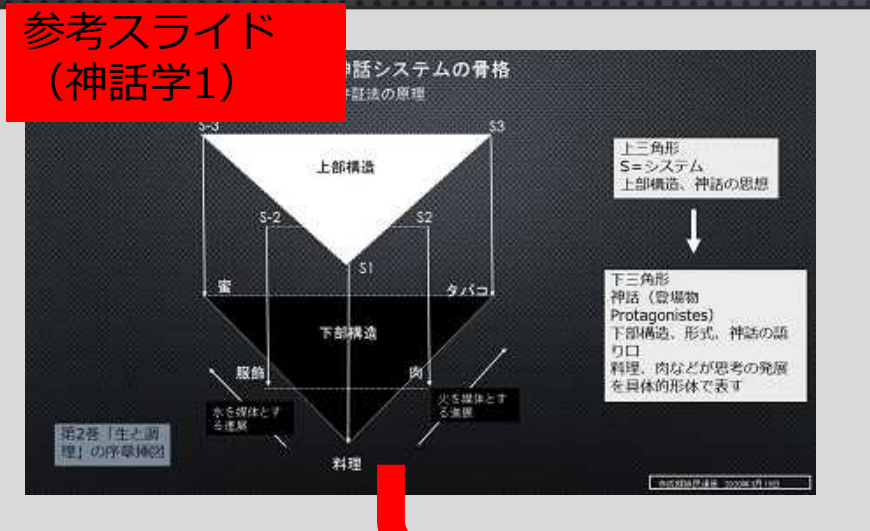
族民の間引きで新たな社会を形成する神話

上からOjibwa族、Tikopia族、Bororo族。 右図は左が旧社会、右が新たな社会。

それぞれ現在の支族構成を間引き神話で説明している (本書62頁)

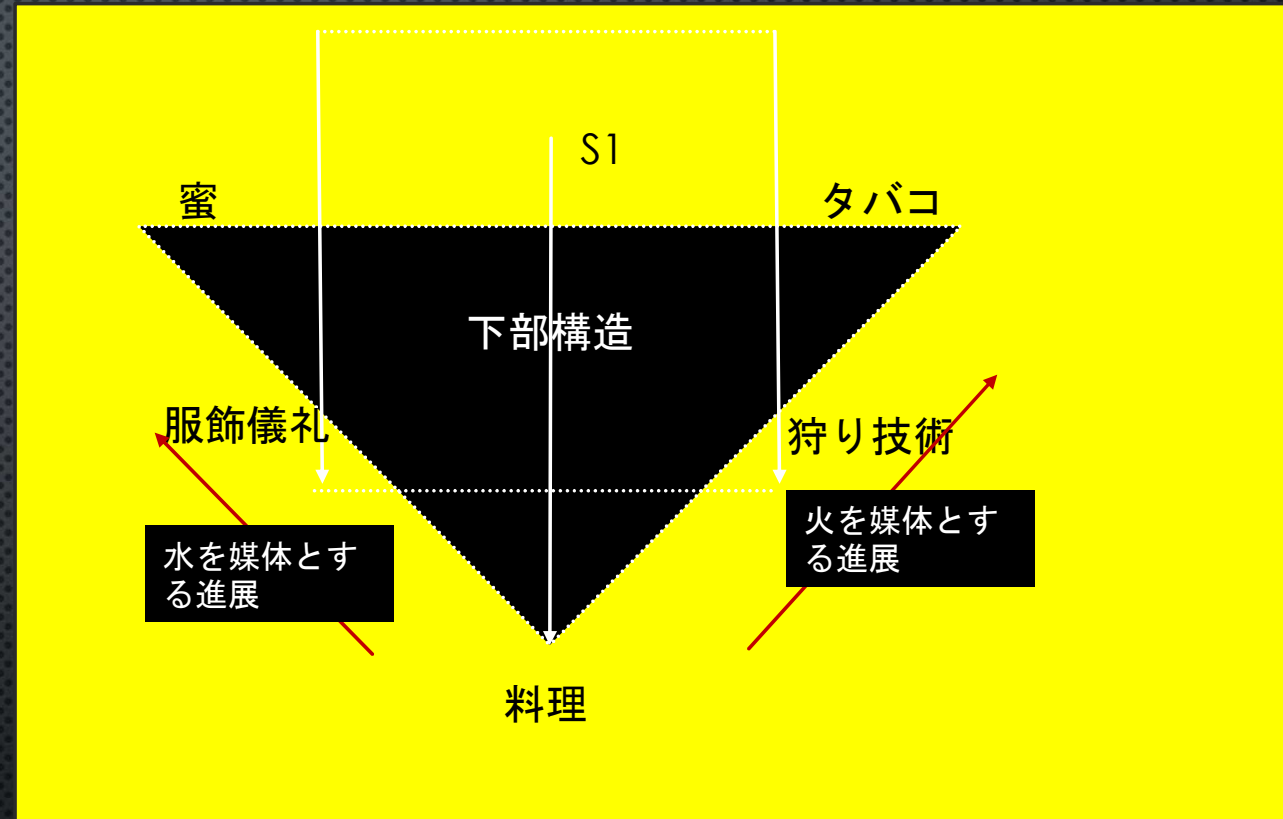
前回（神話学総論）の資料を
参考として貼り付けた
神話の構造：2重三角

参考スライド
（神話学1）



神話 : 2重三角の下部

- 1 S1料理 火の取得 ジャガーから盗む
- 2 S2への進展 狩りの道具を盗む
- 3 S-2 水を創造し宝飾品を作成する技術を取得、儀礼次第（多く与えなければ殺される）が確立





Mythologique
神話学2 生と
調理 1
了

部族民通信

YOUTUBE

神話学 2

1了

人類学

講座

生と調理

2023年10月~24年7月期